

2024年3月期第3四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2024年1月30日



東証 プライム
証券コード：6754
<https://www.anritsu.com>

(ノート部記載なし)

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目 次

1. 事業概要
2. 2024年3月期第3四半期 連結決算概要
3. 2024年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

(ノート部記載なし)

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展

- ◆ モバイル市場：5G、5G活用
- ◆ ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ◆ エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備



PQA事業

食の安全・安心

- ◆ X線検査機
- ◆ 金属検出機
- ◆ 重量選別機



環境計測事業

- ◆ EV・バッテリー向け試験
- ◆ ローカル5G、プライベート5G
- ◆ 道路、ダム・河川等のモニタリング



その他

- ◆ センシング & デバイス
- ◆ その他



(セグメント別売上比率)

2023年3月期 実績（連結）：1,109億円

通信計測 66%			PQA 22%	環境計測 6%	その他 6%
モバイル 51%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 19%			

2024年3月期（4-12月）実績（連結）：778億円

通信計測 65%			PQA 23%	環境計測 6%	その他 6%
モバイル 43%	ネットワーク・インフラ 36%	エレクトロニクス 21%			

(通信計測事業 地域別売上比率)

2023年3月期 実績

日本 15%	アジア他 43%	米州 24%	EMEA 18%
--------	----------	--------	----------

2024年3月期（4-12月）実績

日本 14%	アジア他 38%	米州 28%	EMEA 20%
--------	----------	--------	----------

PQA：Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比 受注：5%減、売上：5%減収、営業利益：35%の減益、当期利益：37%の減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	840	800	△ 40	△5%
売上高	817	778	△ 39	△5%
営業利益	80	52	△ 28	△35%
税引前利益	88	56	△ 32	△36%
当期利益	63	39	△ 24	△37%
当期包括利益	90	68	△ 22	△25%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

グループ全体の受注高は前年同期比5%減の800億円、売上高は前年同期比5%減の778億円となりました。営業利益は前年同期比35%減の52億円、当期利益は前年同期比37%減の39億円となりました。

なお、当期包括利益は、前年同期比25%減の68億円となりました。

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測とPQAは前年同期比減収減益、環境計測は増収増益

(単位: 億円)

国際会計基準(IFRS)		前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	548	509	△ 39	△ 7%
	営業利益	78	49	△ 29	△ 37%
PQA	売上高	180	177	△ 3	△ 2%
	営業利益	8	7	△ 1	△ 8%
環境計測	売上高	38	49	11	30%
	営業利益	△ 4	0	4	-
その他	売上高	51	43	△ 8	△ 15%
	営業利益	5	4	△ 1	△ 19%
調整額	営業利益	△ 8	△ 9	△ 1	-
合計	売上高	817	778	△ 39	△ 5%
	営業利益	80	52	△ 28	△ 35%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

PQA : Products Quality Assurance

通信計測事業は、生成AIの普及拡大によるデータセンター等でのネットワーク高速化に向けた測定需要は堅調であるものの、世界的な5Gスマートフォンの開発投資需要の減少により、売上高は前年同期比7%減の509億円、営業利益は前年同期比37%減の49億円（営業利益率9.6%）の減収減益となりました。

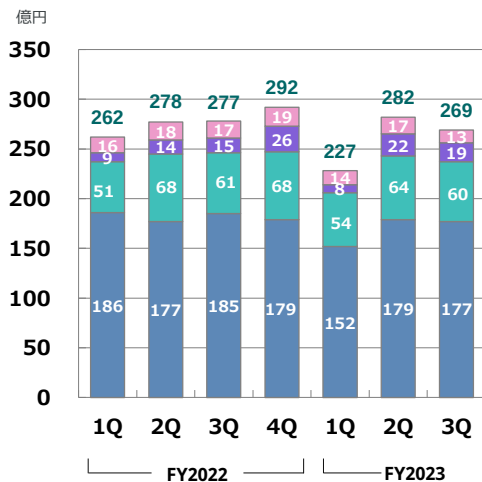
PQA事業は、食品市場の品質保証プロセスの自動化、省人化を目的とした設備投資需要が堅調に推移したものの、海外市場で大型案件が減少し、中・小型案件の割合が増加したことにより、売上高は前年同期比で2%減の177億円、営業利益は、前年同期比8%減の7億円（営業利益率3.9%）の減収減益となりました。

環境計測事業は、国内においてEV・バッテリー向け試験需要が堅調に推移し、売上高は前年同期比30%増の49億円、営業利益は前年同期比4億円増の増収増益となり、黒字を確保しました。

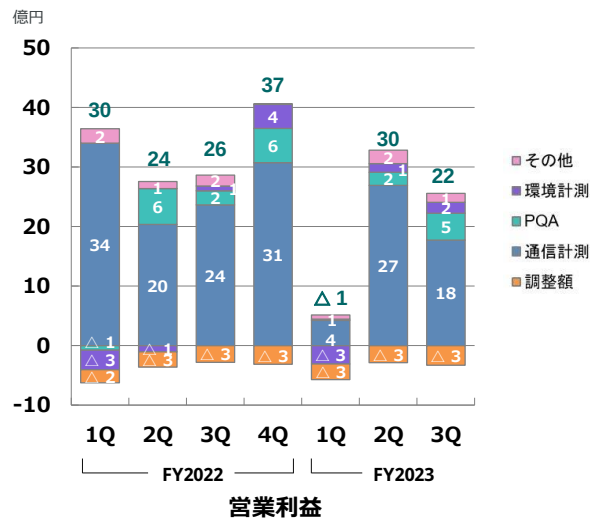
その他の事業では、売上高は前年同期比15%減の43億円、営業利益は前年同期比19%減の4億円（営業利益率10.3%）の減収減益となりました。

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 3Q(10-12月)営業利益率：通信計測 10.0%、PQA 7.6%、環境計測 9.8%



(注) 値はそれぞれで四捨五入



第3四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結	22億円（営業利益率：8.3%）
通信計測	18億円（営業利益率：10.0%）
PQA	5億円（営業利益率：7.6%）
環境計測	2億円（営業利益率：9.8%）

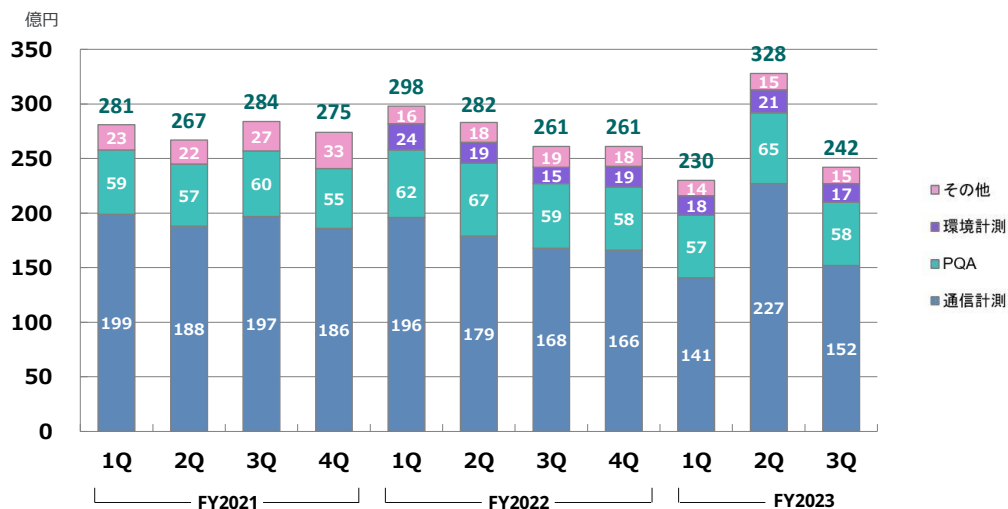
2-4. 事業別営業概況

セグメント 2024年3月期（4-12月）の状況	
➡ 通信計測：世界的な物価、人件費上昇等で止まっていた設備投資が再開も、投資への慎重姿勢が継続 固定ネットワークの高速化需要は順調	
モバイル	アメリカと台湾にて5G開発市場の投資判断に遅れ
ネットワークインフラ	グリーンデータセンターや生成AI専用のデータセンターの構築が加速
エレクトロニクス	6G基礎研究がスタート
アジア他・日本	中国の5Gスマホ開発市場の投資停滞
アメリカ	固定ネットワーク高速化への投資は順調 生成AI等の好調によりデータセンター市場が活況
➡ PQA：欧米の食肉市場は減速も、加工食品市場が堅調	
➡ 環境計測：EV・バッテリー向け試験装置の需要が堅調	

(ノート部記載なし)

2-5. 受注高推移

▶ 前年同期比 通信計測：10%減、PQA：3%減、環境計測：17%増

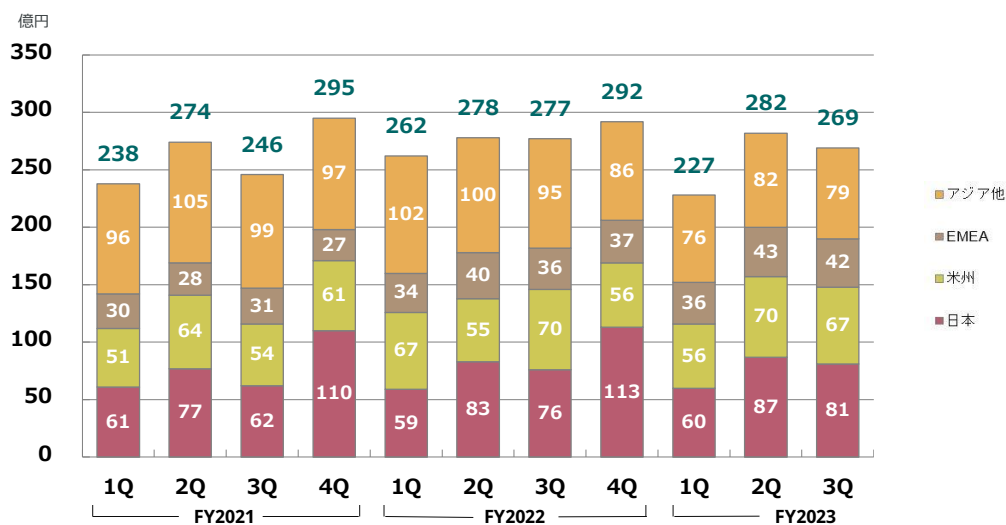


(注) 値はそれぞれで四捨五入

第3四半期のセグメント毎の受注高は、それぞれ前年同期比、通信計測事業では10%減の152億円、PQA事業では3%減の58億円、環境計測事業では17%増の17億円となりました。

なお、受注残高はグループ全体では381億円（前年同期比2%増）、通信計測事業では249億円（同6%増）、PQA事業では69億円（同7%減）、環境計測事業では46億円（同2%減）となりました。

2-6. 地域別売上高推移



(注) 値はそれぞれで四捨五入

(ノート部記載なし)

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率 13.3%

FY2023 (4-12月)

①営業CF： 104億円

②投資CF： △27億円

③財務CF： △62億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)： 77億円

現金同等物期末残高

397億円

有利子負債高

73億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳 (単位：億円)

その他	27		
売上債権	10		
減価償却	45		
税引前利益	56		
税金	△20	設備投資	△19
仕入債務	△14	その他	△8
		配当金	△53
		その他	△9
営業CF	104	投資CF	△27
		財務CF	△62

営業キャッシュフローは、104億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、27億円の資金支出となりました。

その結果、フリー・キャッシュフローは77億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローは、62億円の資金支出となりました。主なものは、配当金の支払い53億円（期末配当分1株20円および中間配当分1株20円）です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より29億円増加の397億円となりました。

3. 2024年3月期 通期業績予想（連結）

- ▶ 2023年10月30日に公表した通期業績予想を下記のとおり修正
配当は、期初計画とおり1株当たり年間40円を予定（期末配当：20円）

		(単位：億円)			
		2023/3期	2024/3期		
		前期実績	通期予想		前期比
			10/30発表	今回発表	増減額 増減率(%)
売上高		1,109	1,115	1,105	△ 4 △0%
営業利益		117	109	101	△ 16 △14%
税引前利益		124	114	106	△ 18 △15%
当期利益		93	85	80	△ 13 △14%
通信計測	売上高	728	710	700	△ 28 △4%
	営業利益	109	93	85	△ 24 △22%
PQA	売上高	248	260	260	12 5%
	営業利益	13	16	16	3 20%
環境計測	売上高	64	80	80	16 25%
	営業利益	1	5	5	4 872%
その他	売上高	69	65	65	△ 4 △6%
	営業利益	6	5	5	△ 1 △11%
調整額		△ 11	△ 10	△ 10	1 -

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

（参考）FY22 実績為替レート : 1米ドル135円、1ユーロ141円
FY23 1Q-3Q実績為替レート : 1米ドル143円、1ユーロ155円
FY23 4Q想定為替レート : 1米ドル140円、1ユーロ150円

業績見通しについて、2023年10月30日に公表した業績予想を修正します。当社グループの主力である通信計測事業においては、生成AIの普及拡大によるデータセンター等でのネットワーク高速化に向けた測定需要が引き続き堅調であるものの、中国市場において5Gスマートフォンの開発投資需要が停滞しています。このような状況から、第3四半期の実績も踏まえて、通信計測事業の売上収益を700億円、営業利益を85億円にそれぞれ下方修正します。PQA事業、環境計測事業及びその他事業においては、業績予想の変更はありません。営業利益の修正、金融収益・費用の計上の影響を織り込んだ結果、税引前利益を106億円、当期利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益を80億円にそれぞれ下方修正します。配当については、期初計画どおり1株当たり年間40.00円を予定しております。

4.当社の取り組みについて

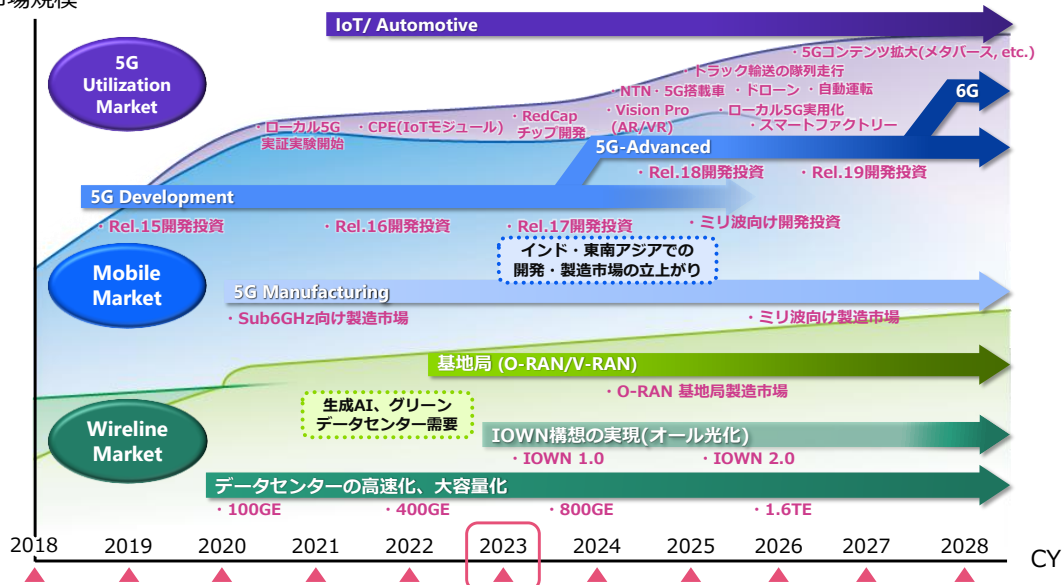
濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

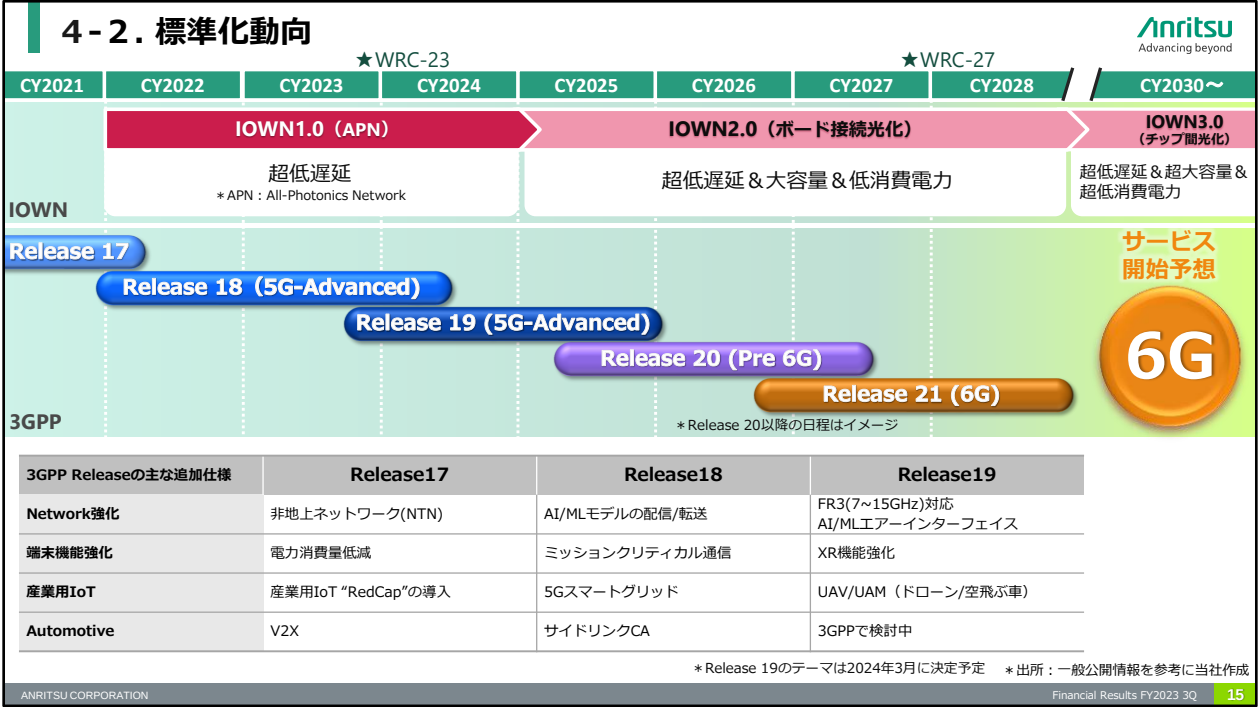
(ノート部記載なし)

4-1. 通信計測市場トレンドと事業機会

市場規模



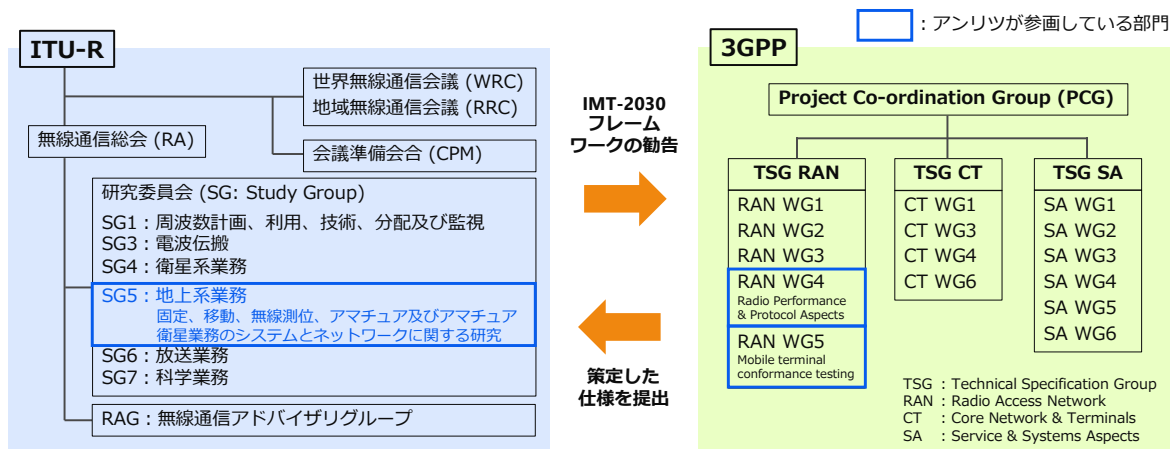
(ノート部記載なし)



(ノート部記載なし)

4-3. ITU-RのSG5（第5研究委員会）に加盟

3GPPに加えてITU-Rに参画することで、IMT-2030（6G）の規格策定に貢献
加えて、技術的課題や要件を早期入手することで、高品質な測定ソリューションをタイムリーに提供



(ノート部記載なし)

4-4. NTN（非地上ネットワーク）の動向とアンリツの取り組み

Anritsu
Advancing beyond

衛星を用いるモバイルサービスやプレサービスが順次開始されてます。

Anritsu skylo

3GPPが策定している5Gにおいても、Release 17にてNTN（non-Terrestrial Network）仕様として、地上ネットワークと衛星ネットワークとの統合が進められています。

MT8821Cは、NTN NB-IoT用の試験ソフトウェアを搭載することで、NTN仕様で衛星と通信を行うデバイスの無線特性の測定が行えます。

当社は、Skylo社のパートナー企業として、同社のNTNデバイス受入のための試験もサポートしています。



ラジオ コミュニケーションアナライザ
MT8821C

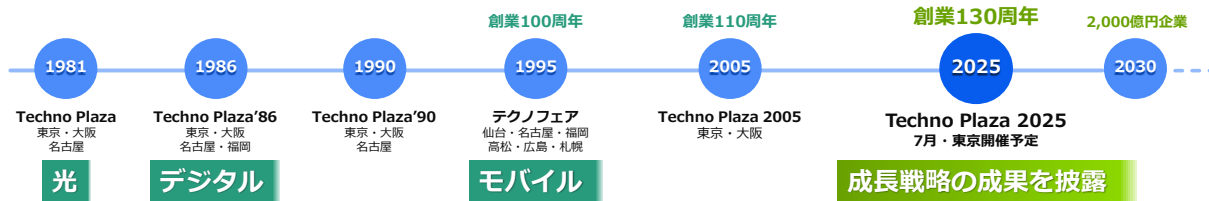
主な衛星サービス	サービス開始	契約キャリア等
Starlink	2021年	KDDI, Softbank, Docomo, T-Mobile, etc.
Skylo	2024年	Softbank, SORACOM, Telefonica, etc.
AST SpaceMobile	2024年以降	Rakuten, AT&T, Vodafone, etc.
Space Compass	2025年	Docomo, NTT
Globalstar	2000年	2022年末iPhoneからの緊急SOSのみ対応

* 出所：一般公開情報を参考に当社作成

(ノート部記載なし)

4 - 5. Techno Plaza 2025

Anritsu
Advancing beyond



テーマ

Advancing Technologies for A Sustainable Future (仮)

業界をリードする先進的な「はかる」技術で持続可能な未来を創る

130年にわたり先端分野を切り開いてきたアンリツグループの英知と想像力を発揮し、2030年のビジョン実現に向けた成長を確かなものとする技術革新を加速。

次世代技術をリードする最新ソリューションと先端テクノロジーをグループ横断で一堂に展示し、市場におけるリーダーシップと持続可能な社会実現に向けた貢献を訴求。



ANRITSU CORPORATION

Financial Results FY2023 3Q

18

(ノート部記載なし)



(ノート部記載なし)